

本人参画型の個別教育計画システムを活かした 主体的・協働的な授業を求めて

井上 剛 岩本 悠希 尾高 邦生 川井 優子 湯山 孝司
高橋 智子 橋都 由美子 松本 晃 渡邊 聡
奥住 秀之 村山 拓 (東京学芸大学)

I 序および目的

1. 昨年度の研究の成果

昨年度は「主体的・協働的な学びを育む支援～ICTを活用した学習活動の充実」という全校テーマを受けて、「主体的な進路選択につなげる進路の学習」という研究テーマで、進路の学習を取り上げ、本校高等部の進路の学習の指導計画を見直し、主体的・協働的な学びを引き出す授業実践を行ってきた。その中で、現場実習の仕事の様子を動画で見ることで生徒それぞれが仕事内容を理解でき、積極的な授業参加を促すことができた。また、タブレット等のICT機器を活用することにより、生徒の態度面を自分で見つめ直すことが容易になったことが成果として挙げられた。進路の学習だけでなく、他の授業場面でも主体的・協働的な学びを引き出すためにはどのような取り組みが必要なのか検討していくことが今後の課題として挙げられた。

2. 今年度の高等部の研究テーマ

今年度は「主体的・協働的な学びを育む支援～個別教育計画を活かした授業づくりから～」というテーマを受けて、高等部では、生徒本人が自分の希望を表明したり、課題を理解したりして、希望や課題に迫っていくことが主体的・協働的な学びにつながると考えた。生徒の希望や課題は個別教育計画に反映され日々の学校生活の中で具体化されていく。この取り組みを改めて見つめることが高等部という発達段階の生徒の主体的・協働的な学びを育むために必要であると考え、本テーマを設定した。

3. 本校の個別教育計画システムと高等部での運用

1) 本校の個別教育計画

本校の個別教育計画とは総合支援シートと教育支援シートから成る。総合支援シート（以下、Aシート）は、5歳期、9歳期、13歳期、17歳期に作成する。内容は今後の学校、家庭、地域生活における制度やサービス施設利用のニーズ、そのための支援の内容や方法の計画を記す。

教育支援シート（以下、Bシート）は、毎年作成している。長期目標は1年間での目標を記し、短期目標はそれに向けて半期で達成できるよう細分化したものをいう。内容は学校や家庭における具体的な指導の柱になるものであり、Aシートの長期的な目標を実現するための教育上の計画としての役割を担う。

現在、高等部のBシートは、保護者（本人）の希望、教員の見取り、現場実習の評価等を総合して担任が原案を作成している。原案を面談等で本人、保護者と一緒に吟味し、目標の内容、支援の方法を明確にし、修正を加えたものを配布している。Bシートの内容は高等部教員で共有する。Bシートの目標に記載されている「主な支援場面」を中心として、各教員がそれぞれの授業場面（授業場面以外も含む）でより具体的な目標設定を行い、指導にあたっている。

2) 高等部でのBシート運用の実際

Bシートの計画段階では、年度当初に学級担任が希望調査書（本人保護者の希望）、前年度からの引き継ぎ、学校での行動観察、現場実習の評価等から総合的に判断し、卒業時の姿をある程度思い描いて原案を作成する。原案は面談及び家庭訪問で本人保護者と確認し、修正したものを再度配布する。

Bシートの実施段階では、Bシートの内容は学部で共有され、各授業者がBシートの内容に関連した目標を設定し、支援を行う。各学級では、「私の前期の目標」等、生徒の言葉で目標設定をする時間を設けている。

Bシートの評価段階では、保護者と書面でのやり取りを行っている。生徒とは、学級で設定した、「私の前期の目標」等が達成できたかどうか振り返る時間を設定しているが、Bシートの評価に生

Ⅲ 結果

Bシートの評価場面における指導と生徒の様子をまとめる。

1. 日々の授業場面での評価

1) 生徒Aより

作業学習（木工班）で、木材を二人一組で切断する場面。二人で木材の押さえて欲しい所等について声をかけ合いながら、作業を進める様子は見られなかった。二人それぞれがお互いの様子を伺いながら作業を進めているため、木材を切断する作業の速度も上がらないといった状態であった。しかし、本人は授業後に「協力できた」と自己評価していた。教員は協力すること（この場面では声をかけ合いながら作業を進めること）の意味理解が不十分であると考え、次回以降、活動前に「相手の顔を見て、声かけをする」という目標を設定した。これは、生徒AのBシートの目標でもあった。この目標を確認した上で活動に取り組むよう場面設定をした。併せて、実際に教員が声かけのモデルを示した。その結果、ペアの生徒に「木材の端を押さえてください」と相手の顔を見て声かけすることができるようになってきた。生徒Aは授業後、「顔を見て声かけができた。協力できた」と自己評価していた。それ以降は、ペアや活動を変えながら初めて一緒に取り組む相手とも協力する姿を期待して指導を重ねることで、自分から声かけする場面が多く見られるようになってきた。

2) 生徒Bより

作業学習（木工班）で、二人一組になり、ベンチの座面を組み立て（一方の生徒が木材を押さえ、もう一方の生徒がネジを締める）場面。生徒Bは組み立てる木材を持ったまま、周りを見渡したり、木材を触ったりして、ペアの生徒と協力する姿は見られなかった。しかし、生徒Bは本時の振り返りでは「協力できた」と自己評価していた。教員は（生徒Aと同様に）、協力することの意味理解が不十分であると考えた。生徒Bの特性上、モデルの提示が有効であると考え、次回以降は、協力するという活動では生徒Bのモデルとなる行動を多く示す可能性のある生徒とペアにして活動を繰り返した。その結果、初めは、ペアの生徒に言われた通りに木材を押さえたり、組み立てたりしていたが、回数を重ねるごとに生徒Bが自分からペアの生徒に対して声をかける場面が見られるようになってきた。生徒Bも協力するという言葉の意味（具体的な行動）を理解できるようになった。

木工班で培われた協力するという行動の般化を目指し、毎週一回（30分）設定されている掃除の時間で、二人一組で窓掃除を行う場面設定を行った。窓掃除の手順と声かけの内容を記した手順表を二人に配布し、活動に取り組んだ。生徒Bは手順表通りに作業を進めると必然的にペアの生徒と協力できるようになっていた。活動終了後に生徒Bとペアの生徒、教員の三人で振り返りを行い、ペアの生徒から「『霧吹きが終わりました、ワイパーお願いします』と言われたので、わかりやすかった」という感想が出てきた。教員は「それが協力すること」という意味付けを行った。このような場面を重ねていくことで、生徒Bは相手と声をかけ合いながら作業を進めることを学習でき、場面の般化にもつながった。

※「協力する」ということは声をかけ合うことだけではないが、生徒Bの実態では、「協力＝声をかける」という段階から始めた方が意味理解がスムーズであろうと判断した。

(3) 生徒Cより

生徒会活動で、朝、玄関前で挨拶運動をする場面。少し離れた人に対して、生徒Cの挨拶の声は聞こえなかった。本人は大きい声を出すように努力したという自己評価であった。教員は生徒Cが相手の距離に関わらず一定の声の大きさを挨拶しているため、少し離れた相手には声が聞こえないと考え、相手の距離に応じた挨拶の仕方のモデルを示した。以前から相手に聞こえる声の大きさを話すことに課題がある生徒であったが、この取り組みを通して生徒C本人がこの課題をより意識して学校生活を送るようになってきた。約1か月後、現場実習報告会にて、実習先での仕事内容、現場実習の個人目標の評価を高等部全生徒の前で発表する場面。生徒Cが発表する場面をタブレットで撮影し、本人と教員とで振り返りを行うと、生徒Cは「大きな声が出ています」という自己評価であった。教員も場面に応じた声の大きさは以前と比べ改善されてきたと評価した。さらにその後の現場実習でも、声の大きさについて良い評価を受け、さらに自信を高めることができた。

2. 学期末の評価

1) 生徒Aより

高等部1年生という段階では、相手への伝え方が未熟であったり、他者評価を受け入れる段階には至っていなかったりする生徒が多いため、学級内で目標の振り返りをする場合は教員が生徒の間に入りながら自己評価したり、他者評価を受けたりする場面を設定している。

教室で自分の前期の目標を自己評価する場面。生徒Aの目標は「相手の顔を見て話をする」であった。この目標に関して、生徒Aは「相手の顔を見て報告ができるようになってきた」と自己評価した。

2) 事例Bより

高等部2年生という段階では、自己評価をしたり、他者評価を受けたりする経験の積み重ねで自己評価の客観性や妥当性であったり、他者評価から自分自身を振り返ったりする力が向上する。

生徒A同様に、自分の前期の目標を自己評価し、クラスメイトからも評価を受ける場面。生徒Bの目標は「周りの人と協力して仕事をする」であった。この目標に関して、生徒Bは「協力することができるようになった」と自己評価した。クラスメイトからは「前よりも協力できるようになった」や「もっと人の話を聞いた方がいい」、「一人でいることが多いので、友達ともっと話をした方がいい」という意見が出た。これらの他者評価を受け、生徒Bはこれから頑張ることを考えることができた。

3) 事例Cより

高等部3年生という段階では、クラスの生徒同士が互いの良い所、課題等を理解し、互いに高め合う集団になってくる。

生徒Cはこれまでの経験から、友達に褒められることに対して抵抗を感じていたが、自分の課題に向けて努力したこと、それが実際に達成したと本人が感じ、他者からも良い評価を受けたことにより自信を高めることになった。前期の目標を評価する場面では、生徒Cは「大きな声が出せるようになった気がする」と自己評価した。クラスメイトから「2年生の頃より声が大きくなった」と評価を受けた際、これまでのとは違う自信のある表情を見せた。

3. 面談での評価、次への目標設定

1) 生徒Aより

本人、保護者、教員の三者面談。前期のBシートの目標を振り返り、これからの目標を考える場面。生徒Aの前期のBシートの目標の一つが「」であった。これに対し、生徒Aは、「顔を見て話ができるようになってきた。人から言われてではなく、自分からやることをがんばりたい」という振り返り（自己評価）ができた。後期は「自分から」をキーワードにして目標を設定した。

2) 生徒Bより

生徒A同様の三者面談。前期のBシートの目標を振り返り、「周りの人と協力したり、声をかけたりすることができるようになってきた。後期はコミュニケーションについてもっと練習したい」という振り返り（自己評価）ができた。そこで、後期のBシートの目標を「色々な人に自分から話しかける」という目標に設定した。

3) 生徒Cより

生徒A同様の三者面談。前期のBシートの目標を振り返り、「聞こえる声で話す目標はできるようになった。次は友達と会話を楽しみたい」という振り返りができた。生徒Cが同年代の人との会話をする姿は、これまであまり見られなかった。友達と会話を楽しみたいと言った生徒Cの希望は担任教員の考えと一致し、後期の目標に設定された。

IV まとめと今後に向けて

このように、学校生活の中で様々な評価場面に生徒本人の参加を促していくことで、生徒が自分の課題を理解したり（受け入れたり）、自分の目標をより意識して学校生活を送ることができるようになってきた。このことは、生徒自身が「私はこんな大人になりたい。そのためにこれをがんばる」という意識の獲得につながり、生活の主体者としての意識の高まりにつながったと考えられる（図1）。このような意識の芽生えは生徒がより主体的・協働的に学ぶために必要な資質であるといえよう。

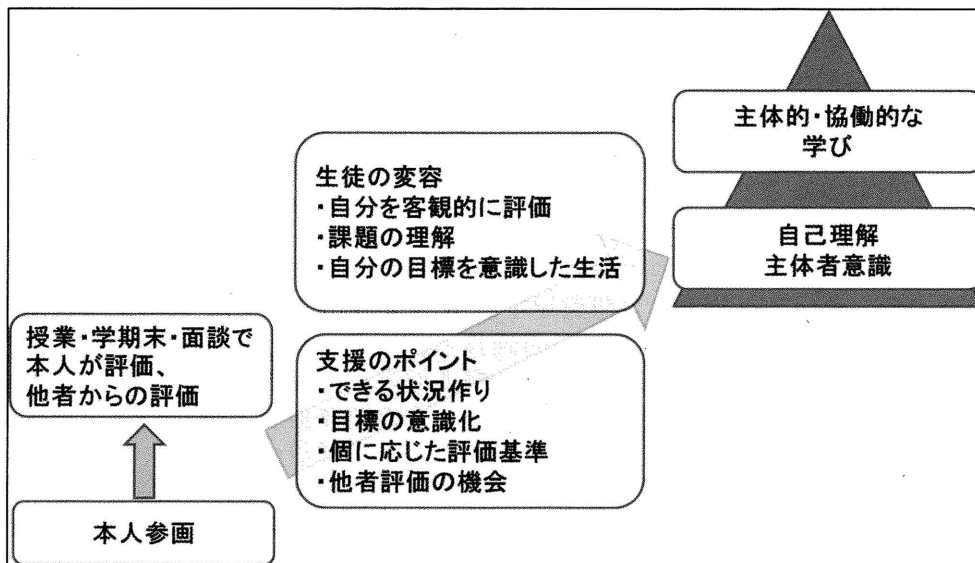


図1：本人参画による主体者意識の芽生えのプロセス

以上のような指導と生徒の変容から、評価場面での支援のポイントと課題について述べる。

1. できる状況作り

指導場面で、生徒本人が目標を達成するための状況作りは勿論必要であるが、生徒同士が他者評価する際には、まず良かった所を発表するような配慮が必要である。そうすることにより、他者に認められたという経験を生徒本人が味わうことができる。この経験の積み重ねがアドバイスを受け入れや次への意欲につながるものであると考える。

2. 目標の意識化を促す場面・環境設定

生徒本人が自己評価したり、他者評価したりするためには、目標の理解・意識化が必要である。授業の導入場面で目標を確認したり、生徒個々人の目標を教室に掲示したりすることで、生徒本人の目標の意識化につながる。また、教室に掲示することで自分の目標だけでなく、友達の問題も一覧できるため、友達の目標の理解にもつながる。

3. 一人ひとりに応じた評価基準の設定

生徒のどのような行動をもって「できた」とするのか、また、「できなかった」とするのかということを教員だけでなく、生徒本人も理解しておく必要がある。複数の生徒で似たような目標になったとしても、生徒の実態が異なることと同様に、評価の基準も一人ひとり異なるものになるだろう。生徒本人とも確認しながら評価していくことが大切だと考えられる。

4. 他者から評価を受ける場面の設定

他者から評価を受けるということは、自己理解を深めるためにはとても重要なことであると考えられる。他者から評価を受けることで自己評価とのすりあわせができ、客観的に自己を見つめるきっかけになるからである。上でも述べたが、他者評価を行う際のポイントを押さえ、自分のこと、友達のことを評価する経験を積むことが必要である。もちろん、生徒がより自信を持てるように目標設定、活

動の精選も重要である。目標設定から評価までの一連の活動が有機的に機能することによって、自己評価と他者評価の違いに気付いたり、新たな目標設定につながったりすることが期待できる。これらは、主体的・協働的な学びを育む支援といえるだろう。

5. 多様な生徒に対応した評価のあり方

多様な実態のある生徒に対しては、やはり、評価基準を明確にしていく作業が必要である。その評価場面をどのように、どの程度構造化するかについては十分な検討が必要である。また、ICT機器の活用については、すぐ撮って、すぐ見るという利点や、しばらく期間を置いてから当時の自分を見返すことで、「あの時はうまくできなかったけど、今はできる」という評価としても活用できそうである。また、生徒の反応を細かに分析していくことも重要である。生徒が見せる表情はどのような心理状況なのか普段から生徒に関わっている教員が理解しようとする姿勢が必要であろう。

(文責：松本晃)

総合学習「学習発表会」学習指導案

日 時：平成29年1月27日（金） 10:00～10:50

場 所：高等部1年教室

対 象：高等部10名（1年3名、2年4名、3年3名）

指導者：岩本悠希（MT）、井上剛（ST1）、高橋智子（ST2）

1. 題材名「賢治先生がやってきた」

2. 題材設定の理由

本校高等部では、自己および社会に対する認識を深め広げる内容を扱う授業として「総合学習」を設定している。「調べる」「聞く（訪ねる）」「話し合う」「選ぶ」「発表する」等について、認識を深めたり、広げたりする方法として学ぶことを目的としている。

「総合学習」は、「テーマを共有し、考え合う」学習から発展し、生徒個々の学習内容の自己選択から情報収集、検討、報告（発表）という一連の流れで学習を行う。自然や環境について学習する「林間学校」（1、2年前期）、自然や文化について学習する「修学旅行」（3年前期）、表現や文化について学習する「学習発表会」（全学年後期）で構成している。それぞれの学習では、集団で学ぶことを生かす場面や意図的・計画的に「考える力」を育てる機会（認識を深める方法を学ぶ機会）や、認識の世界を広げる機会となるように、学習内容を設定している。

「学習発表会」では、毎年全員参加による劇づくり（表現活動）を中心に展開し、その表現を深めるために題材（作品）から学習テーマを抽出して設定した授業づくりを行っている。さらに、作品のもつ社会・自然・文化に関する情報を得る方法（調べる、聞く、話し合う、選ぶ等）を経験的に学ぶことや多様な表現方法について学習を深めることをねらいとしている。学習していく過程の中で、生徒たちの自己表現の可能性を引き出し、集団で考え合うことを通して、多様な世界や文化に関心がもてることを期待している。

本題材の対象者は高等部全学年30名であるが、全体学習やグループ別学習を取り入れているため、本授業の対象者は10名（1年3名、2年4名、3年3名）である。生徒一人ひとりが主体的に自分の役割（配役）を選び、その役になりきって演技（表現）をすることを目標として学習に取り組んでいる。また、生徒同士がより良い演技（表現）について意見を出し合いながら仲間と力を合わせて一つのものを作り上げる経験を通して、協働的な学びを深めることをねらいとしている。学年によって生徒の実態には差があり、学習発表会が3回目の3年生は、堂々と演技（表現）をすることができる生徒が多い。1、2年生は、仲間の前で演技することが恥ずかしくて声が小さくなる生徒や台詞をただ読んでいるだけの生徒、仲間の演技を気にせず自分の演技だけをしている生徒など様々である。

本年度は、「賢治先生がやってきた」（作：浅田洋）をもとに、本校の生徒の実態や興味関心を考慮して編集した内容で劇づくりを行う。「表現・文化」のキーワードを主題として「主体的に情報を得て考え、自己表現・自己決定を豊かにする」ことを目指して学習活動を展開していく。劇づくりの学習では、生徒の役割（配役）や実態を考慮してグループ学習を設定している。曲に合わせて体を動かして配役の気持ちを表現するグループ、役になりきって台詞や表情で表現するグループなど、表現方法や学習内容によってグループ編成する。

本題材「賢治先生がやってきた」は、設定が学校のため日常の学校生活とイメージがつけやすく、ストーリーの展開もシンプルで生徒の興味関心が高まると考え、選定した。また、配役が実在の人物や実際に宮沢賢治の童話に登場する人物であるため、生徒達も興味関心をもって調べ学習に取り組める内容である。さらに、登場人物が多く、全員に役割（配役）があることや、台詞だけに頼らず歌やダンスなどの動きで生徒の実態に合った表現ができる内容を取り入れている。

3. 目標

- 作品への理解を深めながら、テーマについて考え合うことができる。
- 自分の役割を選び、力いっぱい活動することができる。
- 話し合いや表現練習・道具作り等を通して、みんなで作品を作り上げる楽しさや喜びを味わうことができる。

4. 指導計画

(12月～2月) 全88時間 (本時：16時間目)

	学習内容
導入 (1～11時間)	1) 昨年の振り返り、演目の発表 (学習発表会について知る。) 2) 演目の内容理解 (演目の内容を知る。) 3) 配役決定 (オーディションを行う、配役を選択し決定する。)
展開 (12～80時間)	4) 学習テーマについて話し合う (学習テーマを決める。) 5) 表現ワークショップ (豊かな表現方法を身につける。) 6) グループ学習 (物語や登場人物について調べ、自分の役割について認識を深める。)【本時】 7) 舞台清掃・大道具づくり 8) 劇の通し練習 (全体練習・グループ練習を行う。)
まとめ (81～88時間)	9) 学習発表会当日 10) 振り返り (ビデオを視聴し、反省をまとめる。)

5. 本時の学習

1) 本時の目標

- 仲間の役割 (心情等) について自分の意見 (考え) を発表する。
- 演技を通して、登場人物 (自分や仲間) の役割 (心情等) について、認識を深める。

2) 準備物・教材

TV モニター、コンピューター、タブレット端末、ワークシート (拡大版)、板書カード

3) 生徒の実態及び目標・手だて【個人目標☆・手だて○ (個別教育計画に関連した目標★・手だて●)】

生徒	実態	個人目標	指導の手だて	関連する 個別教育計画
A	・自分の役は理解できている。仲間の役割 (心情等) について、自分なりに考えを発表できる。 ・集中して仲間の演技を見ることが苦手である。	☆仲間の役割について、自分の考えを発表する。 ☆顔をあげて、仲間の演技を見る。	○話し合いを通して、仲間から出た意見を関係図にまとめる。 ○タブレット端末を使用し、劇の撮影役として、演技を撮影する。	
B	・自分から挙手して意見を発表することは少ない。指名されると、自分の意見を発表することができる。 ・自分の役は理解している。役割 (心情等) を演技で表現することが課題である。	★自分の意見を自分から、発表する。 ☆自分の役割を演技で表現する。	●仲間の役割について、ワークシートを用いて意見をまとめやすいようにする。 ○関係図を用いて、自分の役割をわかりやすく伝える。	・他者と適切な関わりをもつことができる。
C	・仲間の前では、恥かしさから、自分の考えを挙手して発表することは少ない。自分なりに考えをもつことはできる。 ・自分の役は理解している。自分や仲間の役割 (心情等) については、理解が不十分である。	☆仲間の役割について、自分の考えを発表する。 ☆演技を通して、自分や仲間の役割を知る。	○仲間の役割について関係図を用いて、わかりやすく伝え、考えをまとめやすいようにする。 ○関係図と実際の演技を見て、自分の役割や仲間の役割について具体的に伝える。	

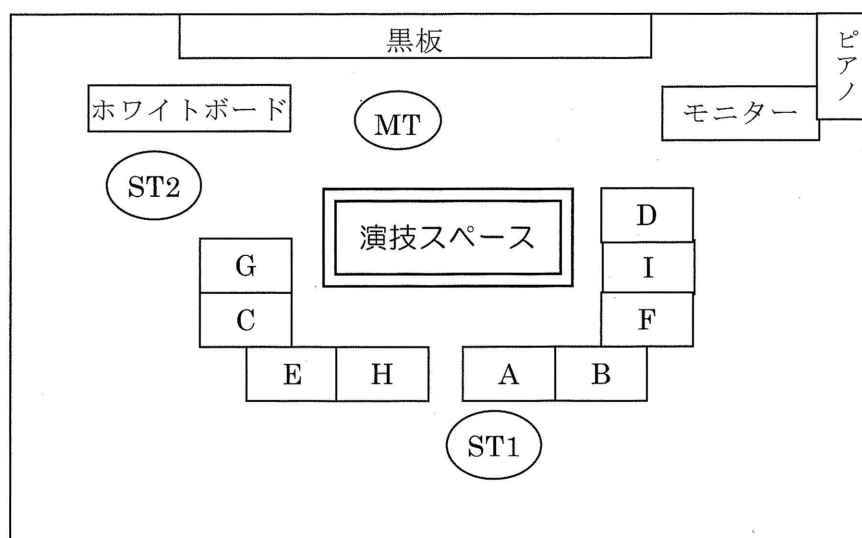
D	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して話を聞くことが苦手で、仲間の発表を聞いていないことが多い。 ・自分の役は理解しているが、役割（心情等）は、イメージができていない。 	<p>★発表している人の顔を見て、話を聞く。</p> <p>☆自分の役割を演技で表現する。</p>	<p>●仲間が発表している時は、相手を「見る」ことを意識できるように声かけする。</p> <p>○関係図を用いて、仲間からでた意見をわかりやすく具体的に伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢で話を聞くことができる。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表するまでに時間がかかる。恥かしさから声が小さくなる。 ・自分の役は理解している。役割（心情等）を考えて演技することが課題である。 	<p>★仲間の役割について、自分なりに考えを発表する。</p> <p>☆自分の役割を演技で表現する。</p>	<p>●仲間からの意見を関係図に示し、考えをまとめやすいようする。</p> <p>○自分の役割に必要な演技（動きやセリフの言い方等）を具体的に伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人前で話をする経験を重ねる。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の前で、挙手して自分の考えを発表するが苦手である。恥ずかしさから発表する声が小さくなる。 ・自分や仲間の役割（心情等）は理解できている。自分の役割を演技で表現することが課題である。 	<p>☆仲間の役割について、自分から意見を発表する。</p> <p>☆自分の役割を演技で表現する。</p>	<p>○自信をもって発表できるように、ワークシートに考えをまとめる。</p> <p>○役割のセリフや動き、その時の気持ちについて、関係図を見て具体的に考えられるようにする。</p>	
G	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手して発表することは少ないが、仲間の役割（心情等）について、自分なりに意見を考えることができる。 ・自分の役割（心情等）は理解できているが、演技で表現することは難しい。 	<p>☆仲間の役割について、自分から意見を発表する。</p> <p>☆自分の役割を演技で表現する。</p>	<p>○自分の意見をワークシートにまとめ、積極的に発表できるようにする。</p> <p>○役割のセリフや動き、その時の気持ちについて、関係図を用いて具体的に伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な人に自分から話しかける。
H	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで積極的に挙手することができる。自分の意見を整理して、仲間に伝えることが苦手である。 ・自分の役は理解している。仲間の役割（心情等）は理解が不十分な点がある。 	<p>☆自分の意見を仲間にわかりやすく伝える。</p> <p>☆仲間の演技を見て、仲間の役割を知る。</p>	<p>○関係図を用いて、仲間の意見をわかりやすく示し、考えをまとめやすくする。</p> <p>○話し合いで出た意見や演技を見る観点を具体的に伝える。</p>	
I	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで積極的に挙手することができる。自分の意見を仲間にしっかり伝えることができる。 ・自分や仲間の役割（心情等）を理解している。心情等を演技で表現しようとするができるが、声が小さくなることがある。 	<p>★仲間の考えと自分の考えを調整して、よりよい意見を出す。</p> <p>☆仲間の前で、自分の役割を堂々と演技する。</p>	<p>●話し合いの中で、仲間との意見交換をする機会を設定する。</p> <p>○関係図を用いて、役割を具体的に伝え、自信をもって演技できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力する。
J	欠席			

4) 本時の展開

時間	学習活動	指導内容	指導上の留意点
10:00	<p>○挨拶をする。</p> <p>○本時の学習予定を聞く。 ○前時までの学習内容を復習する。</p>	<p>○授業の始まりを意識する。 ○姿勢を正して、挨拶ができる。</p> <p>○本時の学習内容を知り、授業に対する意識や意欲を高める。 ○前時までに学習した内容（登場人物等）を思い出すことができる。</p>	<p>○生徒Dが号令をする。 ○MTは、挨拶ができる姿勢、態度になっているか全体を確認する。 ○予定を板書し、視覚的に伝える。 ○前時までの学習についてのワークシート（拡大版）を用いる。</p>
10:05	<p>○「賢治先生登場」「よだかと又三郎」の場面について、話し合う。</p> <p>○実際に「賢治先生登場」「よだかと又三郎」を演じる。</p>	<p>○自分の役割を発表する。</p> <p>○仲間の役割（心情等）について、自分の意見（考え）を発表することができる。</p> <p>○話し合いを通して、お互いに意見を出し合うことができる。</p> <p>○自分や仲間の役割について認識を深める。</p> <p>○自分の役割（心情等）を意識して、演技することができる。 ○仲間の動きや場面の状況に合わせて、演技することができる。</p> <p>○仲間の発表を集中して聞くことができる。</p>	<p>○前回までに作成したワークシートを参考にして自分の役割を発表する。 ○OST2は、生徒の発表をもとに、「賢治先生登場」「よだかと又三郎」の場面についての意見を板書する。 ○OST1は、生徒の様子に応じて意見を出しやすくする発問や助言等を行う。 ○意見を出し合って完成した関係図を提示して、場面を確認する。 ○演技中にも、関係図が見られるように提示する。 ○演技中、仲間の役割が意識できるように、必要に応じて、MTは矢印を使って、関係図の役割を強調する。 ○仲間の演技を集中して見られるように、生徒の実態に応じた視覚的教材を用いる。（生徒A：タブレット端末で撮影、生徒D：ワークシートを記入）</p>
10:40	<p>○映像を見て、自分たちの演技を振り返る。</p>	<p>○自分の演技を振り返り、自分の成長した部分意識することができる。</p>	<p>○初めてのグループ学習で演じた映像を使う。</p>
10:48	<p>○次回の予定を聞く。</p> <p>○挨拶をする。</p>	<p>○次回の授業内容を聞き、期待をもつ。</p> <p>○授業の終わりを意識する。 ○姿勢を正して、挨拶ができる。</p>	<p>○次回の学習内容を提示して、期待がもてるようにする。 ○生徒Dが号令をする。 ○挨拶ができる姿勢、態度かどうか確認する。</p>

5) 備考

・配置図



6) 評価

(1) 個人目標の評価

生徒	個人目標	評価	コメント
A	☆仲間の役割について、自分の考えを発表する。 ☆顔をあげて、仲間の演技を見る。	○ △	・居眠りしてしまうことがあった。
B	★自分の意見を自分から、発表する。 ☆自分の役割を演技で表現する。	○ ○	
C	☆仲間の役割について、自分の考えを発表する。 ☆演技を通して、自分や仲間の役割を知る	△ ○	
D	★発表している人の顔を見て、話を聞く。 ☆自分の役割を演技で表現する。	△ ○	・居眠りしてしまうことがあった。
E	★仲間の役割について、自分なりに考えを発表する。 ☆自分の役割を演技で表現する。	○ ○	
F	☆仲間の役割について、自分から意見を発表する。 ☆自分の役割を演技で表現する。	○ ○	
G	☆仲間の役割について、自分から意見を発表する。 ☆自分の役割を演技で表現する。	○ ○	
H	☆自分の意見を仲間にわかりやすく伝える。 ☆仲間の演技を見て、仲間の役割を知る。	○ ○	
I	★仲間の考えと自分の考えを調整して、よりよい意見を出す。 ☆仲間の前で、自分の役割を堂々と演技する。	○ ○	
J	欠席		

(2) 授業の評価

項目	評価内容	評価	コメント
目標	1. 本時の目標は達成できたか。	○	
	2. 本時の目標は適切であったか。	○	
活動	3. 本時の目標にあった学習活動であったか。	○	
手 だ て	4. 教材は適切であったか。	○	
	5. 教材の提示方法は適当であったか。	○	
	6. 教材の使い方は適切であったか。	○	
	7. 教示方法は適切であったか。	○	
	8. 生徒への援助方法は適切であったか。	△	居眠りしてしまう生徒への支援が不十分だった。
	9. 集団の統制は適切であったか。	○	
	10. 生徒への反応の捉え方は適切であったか。	○	
TT	11. 教員間の役割分担とその連携は適切であったか。	○	
学習 環境	12. 時間配分は適切であったか。	○	
	13. 場面の設定は適切であったか。	○	

(3) 個別教育計画運用の評価

生徒	個別教育計画からの目標	個人目標達成度評価	場面の適切性評価	手立ての適切性評価	次時への課題	個別教育計画への課題
B	・他者と適切な関わりをもつことができる。	○	○	○		
D	・正しい姿勢で話を聞くことができる。	△	○	○	授業に対する意欲を高める。	
E	・人前で話をする経験を重ねる。	○	○	○		
G	・色々な人に自分から話しかける。	○	○	○		
I	・友達と協力する。	○	○	○		

(4) 指導計画の評価

題材名：「賢治先生がやってきた」		
総時間数：88時間 授業日：1月31日（金）		
指導形態に関して	指導内容に関して	時間数に関して
場面に応じた役の役割について意見を活発に出し合うことができた。	演技（表現）に対する多様な考え方を身に付けることができた。	時間数が多いので、生徒の興味・関心が高まる活動を取り入れていく必要がある。